

北大落研創設メンバーで50周年記念の高座に上がる

ひと 2016



およし 美男さん
しばがき 芝垣

高座名「山笑亭小粒」で、6日前身の団体を旗揚げした。大学日開催の北大落語研究会創立50周年記念落語会で大トリを務める現役弁護士。「感慨深いね。高座の上で死んでもいい、っていうのは冗談だけど」と笑う。「小学4年の時にラジオから流れてきた落語で、ちびるほど笑った」。聞いて覚えた落語を中学のお別れ会や、高校の修学旅行の合間に披露した。北大の恵迪寮に入った1966年、5人部屋に入るにはサークルの結成が条件で、仲間5人で落研の

卒業後「弱い者の味方になりたくて」古里で弁護士事務所を開業。落語も続け、プロの落語家を招く愛好家グループを設立した。間もなく自分たちもやりたいと年に数回、寄席を開くようになった。病院や刑務所も訪れ、ボランティアで披露する。

最近家族の話題を盛り込んだ創作落語を上演。弁護士として講演に立つ際も、世相にユーモアを織り込んで笑いを誘う。

「約30年前に立川談志さんの前座を務めた時、『弁護士から見た世相を語ったら』と助言された。みんなに喜んでほしいから、着物でも背広でも笑わせる」

記念落語会の演目は「女房の言葉」。妻島子さん(71)も南京玉すだれが趣味で施設を2人で慰問する。「振り返ると落語みたいな人生。これからも楽しく新しい落語をつくりたい」。室蘭市出身。71歳。(岩崎志帆)